

「シネマ・エッセンシャル 2019」開催のお知らせ

会期：2019年8月13日（火）－8月25日（日）

会場：国立映画アーカイブ 小ホール（地下1階）

平素よりお世話になっております。

国立映画アーカイブの地下1階小ホールでは、8/13(火)より、昨年からはまった企画「シネマ・エッセンシャル」を今年も開催します。本特集は、映画史を代表する作品や多くの観客・批評家から好評を得た歴史的な作品など、映画史上欠くことのできない作品を上映する企画です。

映画史の柱を成す揺るぎない“クラシック”作品をフィルム上映で

音楽、美術や演劇においても“クラシック”作品があるように、映画の世界でも、その歴史を形作ってきた数々の基礎的な重要作があります。しかし現在、そうした過去の作品は動画配信サービスや映像ソフトを通じて観ることが主流になっており、その本来の姿である、フィルムによるスクリーン上映の機会はますます稀少になっています。

そのような環境の中、国立映画アーカイブが2018年に開始した企画がこの「シネマ・エッセンシャル」です。所蔵のフィルムコレクションをベースに、昨年度は黒澤明・小林正樹・今村昌平・相米慎二の4名を取り上げました。2回目の開催となる今回は、日本映画の重要な監督から溝口健二・豊田四郎・増村保造・藤田敏八の4名を取り上げ、改めてこれらの作品の価値を世に問います。

初めて昔の日本映画をご覧になる若い方から、往年の映画ファンの方まで、映画史上の重要作を劇場のスクリーンで一緒にお楽しみいただける機会となります。ぜひ貴媒体でのお取り扱いをお願いいたします。



『浪華悲歌』(1936)

企画担当者より:

「映画史を形作ってきた基礎的な作品を上映する本企画では、それぞれ個性あふれる作風で、日本映画の各時代やジャンルを代表する傑作を生み出してきた4人の監督たちの映画をまとめてご覧になれます。昔の日本映画も観てみたいけど、何から観ればよいか分からないという方、夏休みのこの機会にぜひご来場いただきたいです。」(国立映画アーカイブ特定研究員 玉田健太)



『夫婦善哉』(1955)

▼上映作品▼ (全12作品)

- 溝口健二 『浪華悲歌』(1936)、『残菊物語』(1939)、『西鶴一代女』(1952)
- 豊田四郎 『若い人』(1937)、『夫婦善哉』(1955)、『駅前旅館』(1958)
- 増村保造 『くちづけ』(1957)、『清作の妻』(1965)、『曾根崎心中』(1978)
- 藤田敏八 『新宿アウトロー ぶっ飛ばせ』(1970)、『八月の濡れた砂』(1971)、『妹』(1974)



『くちづけ』(1957)



『八月の濡れた砂』(1971)

※各作品会期中2回ずつの上映。上映日時など詳細はHPまたはプログラムを参照。

◎開催概要

企画名：シネマ・エッセンシャル 2019 / The Essential Films 2019

会期：2019年8月13日（火）－8月25日（日）＊月曜休館

会場：国立映画アーカイブ 小ホール [地下1階] (東京都中央区京橋3-7-6) 【定員：151名】

料金：一般520円／高校・大学生・シニア310円／小・中学生100円／障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

★7月30日（火）10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各70席分)を販売。【Pコード：550-135】詳細はHPを参照。

お問い合わせ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)

HP：<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/essential201907/>

広報画像や特集詳細に関するお問合せ

国立映画アーカイブ上映展示室 白鳥・具・玉田 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 MAIL:pr@nfaj.go.jp